

平成28年度 学校評価報告書

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 教育課程編成によって幅広い履修と多様な選択機会を提供し、生徒の学習希望に応えるとともに、知識技能を活用し探究する学習の充実を図り特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>② 生徒の学習意欲を向上させ、各教科における基礎的・基本的な学力を高めるとともに、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度や意欲を養う。</p>	<p>① アクティブラーニングの視点(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)から、教員の授業改善と指導力向上を組織的、計画的に進める。</p> <p>② 生徒の家庭学習習慣を確立させるとともに、指名補習が適切に実施されるように配慮する。部活動の終了時間および下校時間の厳守の徹底を図り、学習時間を確保する。</p>	<p>① 外部機関が実施する授業改善のための研修会や他校で実施される研究授業等に参加し、授業改善に資する。教員相互の授業見学について期間以外にも実施し、シート等を用いて積極的な研究協議が行えるような環境を整える。「学力向上職員研修」の研究授業および研究協議が実りある内容となるよう工夫する。</p> <p>② 全校集会等で生徒に対し学習に対する意識を高める働きかけを行う。また、小テスト、週末課題等の実施による家庭学習の定着を図る。該当生徒の保護者、各担任、各部活動顧問への連絡を徹底する。部長会等でルール厳守の指導を行い、顧問会議でも職員の共通理解及び意識を高める。</p>	<p>① 授業の公開、見学等を組織的に実施できたか。研究授業の適切なテーマ設定および教科会による十分な学習活動の検討・振り返りができたか。</p> <p>② 各学期の成績、定期テスト等の成績から学習習慣と学力の定着がみられたか。保護者、担任、顧問間で連携が図られたか。文武両道でメリハリのある学校生活が送れるようになったか。</p>	<p>① 他校の研究授業案内を職員に連絡した。授業見学については今年度9～11月の3ヶ月間で2名以上の先生の授業を見学と計画の立案、実施した。前期に授業改善テーマを職員に連絡、そのテーマで外部講師も招き学力向上職員研修を11/22に実施した。</p> <p>② 全校集会において学習方法や取組む姿勢について働きかけを行った。指名補習は担当者より担任・該当生徒、保護者に対し通知文を配付した。部活動の終了時間及び下校時間厳守の徹底でメリハリある学校生活が送れるようになった。</p>	<p>① より効果的な意見交換のあり方の検討をしている。事後アンケートを受け、資料作成、事前協議、グループ分けの方法を改善していく。</p> <p>② 今後も引き続き時間厳守の徹底を図り、学習時間の確保に努めていく。</p>	<p>① 綿密な計画に基づいて研修が行われている。研修成果が授業でフィードバックされることを期待する。生徒・保護者アンケートの初回が少数意見についても、職員で共有し改善に向け論議する必要がある。</p> <p>② つまずく生徒を見逃さない指導を評価する。学校全体で取り組みを進めて欲しいです。</p> <p>② 学習時間がなかなか確保されていないという保護者からの指摘も見受けられた。</p>	<p>① 研修計画に沿って綿密な研修ができた。研修成果をすべての教員が日常の授業にフィードバックしている生徒は素早い対応ができるが、教員からは、見えない学力不振で困っている生徒への手の差伸べ方が課題となる。</p> <p>② 多くの生徒は学習と部活動の両立をさせ、キャリア学習や集会などの指導が奏功しているように見える。また下校終了時刻も多くの部活動でまぼ守られている。</p>	<p>① 成果を生かすための仕掛けを学校全体で作る。新指導要領を見据えたアクティブラーニングの継続的な研究をする。</p> <p>② 生徒に寄り添いながら一人ひとりの課題を見つけ、成長させるための時間を確保する。時間管理や集中学習法は各教科やHRを活用して指導する。</p>
2	生徒指導・支援	<p>① 生徒の規範意識を醸成させる指導体制と個に応じた相談体制を充実させ、安心して生活できるよう支援する。</p> <p>② 部活動や委員会活動を通じて、個々の生徒がその興味関心を深め、より主体的で豊かな学校生活を送るよう支援する。</p>	<p>① 学校全体の生徒指導体制が混乱しないよう職員間の意思疎通を図りながら、生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握し、課題の解決に当たる。</p> <p>② 生徒会行事、諸活動を通し、生徒の自主的・主体的な取り組みのための支援をする。</p>	<p>① 情報交換会議やケース会議を開催し、職員が情報を共有しながら個々の生徒の事情に応じた生徒指導を行う。</p> <p>② 体育祭・文化祭・球技大会等の行事を通して、生徒の自主的・主体的な取り組みを指導する。</p>	<p>① 学校全体の一貫した生徒指導体制が混乱しなかったか、情報交換会議やケース会議が機能し課題解決につながったか。</p> <p>② 諸活動を支援することにより生徒の自主性・主体性は十分に伸長したか。</p>	<p>① 問題行動の未然防止策として、積極的な生徒指導が行えている。生徒に落ち着いた学習環境を提供することができた。</p> <p>② 生徒会行事及び諸活動を支援することで生徒の自主性・主体性を十分に伸張することができた。</p>	<p>① 生徒相談室の環境を整え、より利用しやすい場所が提供できるよう努める。</p> <p>② 生徒相談室の環境を整え、より利用しやすい環境を整えたい。</p>	<p>① 少しずつではあるがスクールカウンセラーを利用する生徒が増えている。新校舎完成に伴い、より利用しやすい環境を整えたい。</p> <p>② 行事における来校者数や部活動の結果から、活発に実践されていることがわかる。更なる深化を期待する。</p>	<p>① 重大な問題を抱えていなくてもカウンセリングが受けられる体制構築も課題である。他の生徒や教員に察せられることなく入室出来るカウンセリングルームの環境ができるか。</p> <p>② 生徒の自主性を引き出しているという反省も多いが、保護者アンケートには初回が意見も散見される。よく吟味して課題の整理が必要である。</p>	<p>① 新校舎の完成に合わせて新しいカウンセリングルームの整備(部屋の内装や調度)をする。</p> <p>② 行事や部活動を通じて個々の役割分担、活動活性化のためのアイデア、成果と問題分析等を一人ひとりが出来るような仕組みづくりを提起する。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	① ・学力の定着と問題解決能力の向上を図り、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよい選択をするための力を身につけることを目標とする。	① ・「キャリアデザインプログラム」により、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよいキャリアデザインするための力を身につけることを目標とする。 ・進路に関する的確な情報提供により、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよい進路を選択するための力を身につけることを目標とする。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、生徒個々の主体的な活動を、学年に応じて、1学年「将来を探る」、2学年「分野を選ぶ」、3学年「進路を決める」ことをテーマに、段階的に展開していく。 ・進路に関する的確な情報をキャリア通信等で提供し、パソコンやインターネットを活用した進路指導や面談を実施する。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、ガイダンス、模擬授業や課題研究を、各学年で計画的に実施するとともに、模擬試験等の結果の振り返りを面談で有効に活用することで、生徒のキャリアデザイン力が高まったか。 ・キャリア通信等による的確な情報の提供や、パソコンやインターネットを活用した進路指導や面談を通して、明確な進路目標を持つ生徒が増えたか。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、ガイダンス、模擬授業や課題研究を、各学年で計画的に実施したとともに、模擬試験等の結果の振り返りを面談で有効に活用したことで、生徒のキャリアデザイン力が高まった。 ・キャリア通信等による的確な情報の提供や、パソコンやインターネットを活用した進路指導や面談を通して、明確な進路目標を持つ生徒が増えた。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、ガイダンス、模擬授業や課題研究を、各学年でより効果の上がるものに改善するとともに、模擬試験等の結果の振り返りを面談でさらに有効に活用することで、生徒のキャリアデザイン力が高める。 ・キャリア通信等による的確な情報の提供や、パソコンやインターネットを活用した進路指導や面談をさらに工夫して、明確な進路目標を持つ生徒を増やす。	① ・1年生では就業についても考察させ、学年が上がるにつれて進学について考えさせるアプローチを取り、生徒の実態に合わせた取り組みになっている。	① ・模試等を実施しっぱなしにすることなく、教員全員でデータ分析をし、生徒一人ひとりと面談し、次の段階へつなげていくことが学校全体の伝統になりつつある。 ・英語のGTECテストは今年度は県の補助金でスピーキングまでの実施が可能になった。単年度での企画でなく、中期的に企画できるような財政的な裏付けが課題である。	① ・模擬授業や総合学習における課題研究を、各学年でより効果の上がるものに改善するとともに、模擬試験等を面談でさらに有効に活用する。
4	地域等との協働	① ・本校で学習した生徒の能力や教員の様々な知識・能力を積極的に地域還元することで、開かれた学校づくりを展開する。	① ・学年や部活動主体で地域貢献活動を実施し、また生徒会諸活動を通して地域交流活動を行い、開かれた学校づくりをめざす。 ・地域住民参加型の公開講座を企画・実施する。	① ・地域貢献テーマ(地域清掃)を1年生全員で実施し、ふれあい清掃(地域清掃)を2・3年美化委員会主導で実施する。 ・部活動や委員会活動を通して、地域貢献ができる企画と運営を実施する。 ・公開講座「スローの楽しみ」を11月に4回シリーズで実施する。地域住民のニーズにあう新シリーズの開発に着手する。	① ・年間計画等で実施を決めた地域清掃を実施することができたか。 ・3部活動以上の団体で活動ができたか。 ・地域貢献活動を通して、生徒の地域に対する意識の変化が見られたか。 ・受講者の要求にあった講座が実施できたか、アンケート等の調査で確認する。	① ・各学年とも生徒主体で計画を立て、運営も自主的に出来るようになった。1・3年は雨のため実施は叶わなかった。 ・地域貢献活動も放送部・吹奏楽部・野球部・創作舞踊部等の部員が積極的に取り組んで、社会性を身につけている。 ・地域の歴史を学びたいという受講者の声に答えている。	① ・雨天対策としては、時期を大幅にずらして延期に対応することを年間計画に盛り込んだ。 ・常連の部だけでない広がりを生徒会と調整していくことが課題。(地域貢献活動)	① ・試合後の会場清掃活動がフティなどは見えて清々しい。 ・生徒は授業と部活動に多忙な様子がかがえるが、日常の活動や授業のなかで生徒の自主性(ボランティアマインド)を醸成することを要望したい。 ・教員のメンバーを地域に活かすという次元でよりよい公開講座の発展を期待したい。	① ・学習活動と部活動だけで精一杯の生徒状況があるが、平素の生活のなかでの社会貢献が出来ている生徒も多い。(困っている高齢者を自宅まで送り届けるなどの事例もあり、当たり前だが当たり前の事が当たり前に出来る座間高生は潜在的に多い)これらの事象を高評価する目を教員が持つことも重要な課題である。 ・職員室で公募し、新シリーズを企画することができた。	① ・地域貢献活動は生徒会と連携し、固定した部だけでなく学校全体で取り組む。 ・新シリーズ「ダンス教室」を充実するための校内組織の構築を図る。
5	学校管理 学校運営	① ・事故・不祥事の防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を一層向上させる。 ② ・生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化する。	① ・成績処理や携帯電話・電子メール等の取扱について、計画的・組織的に取組み、不祥事防止の徹底を図る。 ・グループの業務マニュアルや防災マニュアルについて見直しを進め改善し、防災マニュアルについては、職員に内容を周知する。 ② ・生徒の防災意識を一層高められるよう防災訓練を実施し、生徒の諸活動中における防災意識の向上を図る。	① ・事故防止会議や学年会等を通して、職員の意識向上を高める。 ・担当業務についてマニュアルの確認見直しを進め、業務遂行の円滑化を図る。防災マニュアルの抜粋を準備し職員に内容を周知するよう努める。 ② ・生徒の防災意識の涵養を図るために、防災訓練を2回以上行い、加えて災害図上訓練(DIG)も実施する。 ・体育祭・文化祭・部活動など、生徒の諸活動前に非常口や避難経路等の周知徹底を図り、防災意識の向上を図る。	① ・素点票、成績個票、成績一覧表、通知表等の記載が正しく行われたか。 ・職員の不祥事防止に対する取組みは徹底できたか。 ・業務遂行を円滑に進めるために、マニュアルの見直し、改善ができたか、防災マニュアルについて、職員への周知ができたか。 ② ・2回以上の防災訓練に加え災害図上訓練(DIG)を行い、防災意識が高まったか。 ・生徒の諸活動中における防災意識が高まったか。	① ・全教科一斉に点検を行った。 ・教育委員会から配付される資料や新聞記事等を活用し不祥事防止の徹底に取り組んだ。 ・教務マニュアルや学校防災活動マニュアルの見直しを行い全職員配付し周知した。 ② ・4月と10月の防災訓練に加え3月には2年生の一部を対象に災害図上訓練(DIG)を行い、防災意識を高めることができた。	① ・管理職点検で記載ミスが発見される事があり、来年度は学年点検の方法を改善する必要がある。 ・職員会議で管理職や各グループが不祥事防止に関する資料を配付し職員に対し注意喚起を行った。 ・次年度の業務が円滑に行えるよう、各グループで今年度の業務のまとめ及び引継ぎ書の作成をしている。 ② ・今後も継続的に防災訓練を実施することで、更に防災意識を高め万全の備えを心がける必要がある。災害図上訓練参加者数を増やすために、ファミリーの養成が急務である。	① ・教員全員で一斉に点検し、点数等の誤記載の内容のチェックをする取り組みは是非定着させて事故のないようにしてください。 ② ・近隣自治会にも参加していただき、地域防災の充実という視座で防災教育を推進するのは望ましい方向です。	① ・事故防止の観点から、成績処理については各教科各学年で一斉に点検活動を緻密に展開し一定の成果を挙げた。ただ非常に作業量が増えており、それが新たな事故を誘発する可能性も秘めている。時間の確保が課題である。 ② ・3月のDIG研修は熱心な生徒の参加と地域の方々の参観で所期の目標は達成できた。HRを通じて多くのクラス別の自治会の参加も模索したい。	① ・「文書」事故以外の部門においても幅広く事故防止ができるようにすることが改善の次の動きとなる。 ② ・学校の取り組みだけでは、大規模な震災に対する防災教育としては限界があり、市や地域自治会との連携が不可欠である。